

# 吹奏楽

中橋 愛生

1月7日に汐澤安彦が死去し、2月17日に東京佼成woと東京吹奏楽団が7人の指揮者による追悼合同演奏会を行なった。1月26日には秋山和慶が逝去。この二大指揮者を失ったことから始まった年は、12月9日の秋山紀夫の訃報で終わる。戦後日本の吹奏楽界を牽引した巨匠たちの死はあまりにも大きい。2025年は「1つの時代が終わった年」として後世に残るだろう。

## ■イベント

大阪・関西万博は特筆すべきイベント。4月12日の開幕式では地元オオサカ・シオンwoが演奏、陸上自衛隊の音楽隊もファンファーレなどを演奏。シオンはテーマソングの編曲を委嘱し全国へ演奏を呼びかけるなど万博に広く協力した。5月11日には「プラスエキスポ2025」の一環として会場の大屋根リングで333団体・12,269人によるマーチングのギネス世界記録を達成。6月8日には関西のバンドが集まり「いのち輝く吹奏楽」を開催。8月25日には大阪市内の中高生による「たそがれコンサートin EXPO」を開催。来日団体も数多く、4月の「ウェールズ・デー」に合わせ同地の金管バンド「トングウィンライス・テンペランス・バンド」が万博会場のほか14日から20日まで日本各地で公演。6月29日にカンザス大学weが大阪芸大と合同で演奏。6月末から7月頭にかけてはオーストラリアの金管バンド「ブリスベン・プラス・バンド」が公演、同団は東京で開催された「東京プラスバンド祭」にも特別出演した。9月24日・25日の「ザルツブルク・デー」にはモーツァルトウム音楽院と大阪音大の学生によるクロス・カルチュラル・チューバプロジェクトのパフォーマンス。10月にはイタリア陸軍音楽隊が演奏。他、6月21日に100人のマリンバ奏者による「マリンバンバク」など様々な管打楽器のイベントが行われたのだが、それらの詳細は事前も事後もほぼ周知されておらず、まとまった記録も無い。1970年の大阪万博が「吹奏楽の祭典」とされたのに比べ寂しい限り。

その他のイベントについて。3月16日に浜松でのバンド維新2025で鈴木英史と北爪道夫の新作を含む全8曲が披露された。4月26日に金沢にて開催された「ガルガンチュア音楽祭」では「吹奏楽の祭典」に北陸のアマチュアバンド11団体と昭和音大wsが出演。毎年5月に行われる日本吹奏楽指導者クリニックは韓流アイドルのワールドツアーの影

響で宿泊地が確保できなくなり中止。代わりにオハイオ州立大wsなど元々出演を予定していたバンドを集めた特別コンサートを5月17日に開催。6月1日には甲子園プラスバンドフェスティバルが開かれ8つの高校バンドが応援曲やマーチングの演奏を披露。

## ■国内団体の動き

戦後80年ということもあり、自衛隊音楽隊の活動が目立つ。陸上自衛隊は3月10日から12日にかけて中央音楽隊がオーストラリアにて同国陸軍音楽隊と合同演奏。9月6日に中央音楽隊・東部方面音楽隊がバブアニューギニアの独立50周年を記念してポートモレスビーでの軍楽祭に参加。12月に音楽隊隊員がジブチ共和国に音楽隊育成支援として派遣される。海上自衛隊は2月10日に東京音楽隊が用賀から立川に移転。10月初旬に音楽隊がグアテマラで同国軍楽隊と合同演奏会。航空自衛隊は2月7日に航空中央音楽隊がオラフ・オット (Trb) を招いて特別公演。3月21日に航空自衛隊70周年として各方面音楽隊が合同演奏。4月24日から27日にかけて航空中央音楽隊がアメリカ・ヴァージニア州ノーフォークで開催された国際軍楽祭に出演。米空軍ヘリテージ・オブ・アメリカ・バンドとの合同演奏会も行う。9月には航空中央音楽隊の金管五重奏がイギリスとドイツに派遣され各地で演奏したほかイギリス王立コールドストリームバンドおよびヨーマンリー連隊バンドやドイツ連邦軍参謀軍楽隊と合同演奏会。

自衛隊以外について。東京佼成woが定期演奏会を年5回に増加、5月18日に都内中学生との「絆コンサート」を6年ぶり開催、12月19日には保科洋の新編曲でベートーヴェン第九公演（共演：東京混声合唱団）。東京吹奏楽団は12月18日に佐々木新平正指揮者就任記念コンサート。オオサカ・シオンwoは4月1日よりダグラス・ボストックを首席客演指揮者とし海外展開を見据える。広島woは被爆80周年を契機に「平和定期演奏会」シリーズを開始し10月11日に第1回。日本we《桃太郎バンド》は代表・鈴木英史の還暦記念コンサートを2月22日と24日に大阪と東京にて委嘱作品8曲を含む意欲的なプログラムで開催。プロウインドオーケストラ北海道が3月22日にデビュー公演。音楽大学の動向としては3月27日に桐朋学園大ジュニアwoが第1回演奏会を行い小学校4年生から高校生までが大学生・教員と一緒に演奏

する活動を本格化したのが目新しい。

### ■海外との交流

アメリカへは、毎年元旦の恒例であるローズパレード2025に京都橘高校が出場。

アジア圏では、8月25日と26日にシンガポールで開催されたアジア太平洋吹奏楽指導者協会「APBDAシンガポール2025」に神奈川大学が22日のオープニングコンサートとガラコンサートなど4つの公演に出演。同イベントにはNiconico Sounds in BRASSも参加しアニメ音楽などを演奏。12月25日から29日まで浜松聖星高校が香港演奏旅行。

例年のように台湾との交流が厚く、6月6日から7日まで広島woが桃園管楽嘉年華にて下野竜也の指揮で2公演。10月17日に大井剛史の指揮で東京佼成woがアニメ音楽を中心とした演目で台湾公演。12月下旬の嘉義市国際管楽節には奈良学園大マーチングバンド部、熊本工業高校、拓殖大学紅陵高校（千葉）、龍谷大学付属平安高校（京都）が出演。

ヨーロッパでは、3月26日に日本高等学校吹奏楽連盟の主催で全日本ユース選抜吹奏楽団がブラハで演奏会。8月15日から18日にかけて浜松市民吹奏楽団がドイツで開催されたマルクグリュオーニンゲン国際音楽祭に出演。

海外バンドの来日も盛ん。3月には茅野市がアメリカ・コロラド州ロングモント市の高校選抜吹奏楽団を招き地元の中高生と合同演奏会、4月に下野市がドイツ・ディーツヘルツタール市の楽団ブリーツホイザ・プレヒクラッペンを呼ぶなど、姉妹都市関連の招聘が目立つ。4月20日には台湾の国立南科国際実験高級中学吹奏楽団が石川県吹奏楽連盟主催の「フレンドシップ・コンサート2025」に出演、4月下旬には宮崎国際音楽祭のオープニング「みやざき国際ストリート音楽祭」に台湾師範大付属高級中学管楽隊が参加。このような海外の中高生の来日交流演奏は他にも多数あった。大学でも、5月7日にアメリカ・ウォートバーグ大学が来日公演、前日には帝京大学と合同演奏会も行っている。5月中旬に来日した前述オハイオ州立大学wsは各地で公演している。

### ■その他の話題

3月に行われた国際コンクール「WIND STARS 2025」吹奏楽リモート審査部門で北海道教育大スーパーウィンズがグランプリ、11月29日に「ワルシャワ国際吹奏楽指揮者コンクール」で柴田昌宜が第1位を受賞したのは、未来への希望と考えたい。

### 中橋愛生（なかはし・よしお）

作曲家。1978年生。東京音楽大学および同大学院を修了。第71回（2002年）日本音楽コンクール作曲部門第三位、第18回（2008年度）日本管打・吹奏楽学会アカデミー賞、日本吹奏楽指導者協会「下谷奨励賞」（2009年および2010年）を受賞。2008年よりNHK-FM「吹奏楽のひびき」パーソナリティも務める。現在、東京音楽大学教授、国立音楽大学・日本大学芸術学部各講師、日本管打・吹奏楽学会理事、日本管楽芸術学会正会員。